

札幌心臓血管クリニックを受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

ご自身がこの研究の対象者にあたると思われる方の中でご質問がある場合、またはこの研究に「自分の情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、下記の担当者までご連絡ください。

研究課題名 (研究番号)	破裂性腹部大動脈瘤に対する開腹手術とステントグラフト内挿術の治療選択に関する全国多施設観察研究
当院の研究責任者 (所属)	光島 隆二 (心臓血管外科)
他の研究機関および 各施設の研究責任者	<p>日本血管外科学会の破裂性腹部大動脈研究委員会において以下の共同研究者が研究の代表をつとめます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旭川医科大学東信良 ・名古屋大学古森公浩、坂野比呂志 ・関西医科大学善甫宜哉 ・弘前大学福田幾夫 ・信州大学福井大祐 ・東京慈恵会医科大学戸谷直樹 ・湘南鎌倉総合病院荻野秀光 ・森ノ宮病院加藤雅明 ・山口大学森景則保
本研究の目的	<p>破裂性腹部大動脈瘤は未だに死亡率の非常に高い救急疾患であり、通常その死亡率は18~40%と言われております。治療法としては、従来の開腹手術に加えて、ステントグラフト内挿術という新たな治療法が破裂性大動脈瘤にも使用できる場合があり、救命率の改善を期待して、近年、破裂例に対するステントグラフトの使用が急増しております。しかし、実際のところ、ステントグラフト内挿術によって救命率が改善しているのかどうかは意見が分かれており、また、どのような症例であればステントグラフト内挿術がより適している、どのような症例なら開腹手術が選択されるべきなのかも、十分に分かっておりません。</p> <p>本研究の目的は、破裂性腹部大動脈瘤症例の治療内容を全国から広く集め、多数の症例のデータを解析することで、開腹手術が適する症例とステントグラフト内挿術が適する症例を明確にし、そうしたデータに基づいて適確な治療法を導くことで、日本における破裂性腹部大動脈瘤の救命率向上を目指します。</p>
調査データ 該当期間	<p>×</p> <p>西暦2018年1月1日～2023年12月31日</p>
研究の方法 (使用する試料等)	<p>研究に参加している施設において破裂性腹部大動脈瘤に対する治療を受けた患者さんが対象となります。</p> <p>破裂性腹部大動脈瘤が発症してから退院するまで、その診療内容(含む血液検査結果や検査画像ならびに破裂に関する画像)をデータとして使用させていただきます。そうして集まってきた破裂性腹部大動脈瘤のデータを解析し、どのような症例でステントグラフト内挿術がより有効なのか?どのような手術手技が救命率向上をもたらすのかを研究します。</p> <p>さらに、破裂性腹部大動脈瘤を発症しても救命に成功された患者さんには、さらに3年間の通院カルテ情報の一部を登録いただき、救命後に起こる血管関係の疾患発症や動脈瘤関係の再治療の状態を観察し、開腹手術とステ</p>

	ントグラフト内挿術が手術後早期だけでなく遠隔期の成績も比較検討させていただきます。
試料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	<p>■多施設共同研究グループ内（提供先：NCDという全国の手術データを登録している機関、および日本血管外科学会）（提供方法：電子データ登録）</p> <p>なお、登録されたデータは特定の関係者以外はアクセスできない状態で、厳重に管理されます。</p>
個人情報の取り扱い	調査により得られたデータを取扱う際は、対象者の個人情報保護に十分配慮する。特定の個人を識別することができないよう、対象患者に符号もしくは番号を付与する。対応表は各参加施設毎に、厳重に管理する。当院では9階東医師記録室の鍵のかかる机に紙媒体のファイルとして保管する。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究は、特定非営利活動法人日本血管外科学会が資金提供して行われる。また、本研究の研究者は、自施設の「利益相反審査委員会規定」に従って、利益相反審査委員会に必要事項を申告し、その審査と承認を得るものとする。
お問い合わせ先	<p>電話：011-784-7847</p> <p>臨床研究戦略部 CRC：梶原 由紀 研究担当医師：光島 隆二</p> <p>研究代表者</p> <p>旭川医科大学外科学講座血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野 東 信良</p> <p>郵送先住所：〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目旭川医科大学外科学講座血管外科学分野</p> <p>電話 0166-68-2494 、 FAX 0166-68-2499</p>
備考	